

連文

R E N B U N



Vol. **112**
2022.1



新年にあたり寄稿していただきました。

年頭の「ごあいさつ」

西日本新聞社

久留米総局 総局長

曾山 茂志



『1993
(平成5)年5
月、初任地の
久留米に赴任
した。もちろ
ん、担当は記
者の登竜門で

ある事件・事故。商工会議所近くの総局に一時住み込んで、昼夜警察署や裁判所を回る日々。そんな中で、不思議に思ったことがある。総局に画家や彫刻家がよく現れる。どんな作品を手掛ける人たちなのか、知るよしもなかったが、彼らはいつも朗らかに語り、大いに飲んでた。たまに、その輪に入れてもらおうと、殺伐としたサツ回り記者の心も癒やされた。「久留米連合文化会」との出会いだった。

2年余り務めた久留米から、北九州支社に異動した。そこでは、前任者からの申し送り、管内である水巻町出身の戦没画家の遺作展と本紙主宰シンポジウムの準備が待っていた。戦時中、志半ばで亡くなった若き洋画家大貝彌太郎。奥様が大切に保管していた作品を展示して、大貝とその遺族の思いを語り合う。若くて、

文化的素養が低い私が曲がりなりにこそその重責を果たせたのは、前任地で久留米連合文化会との交流を通して、文化芸術への関心が芽生えていたのも無縁ではない。

その後、本社から東京、大分、韓国・ソウルなどを経て、昨年夏、久留米に25年ぶりに戻ってきた。新型コロナという疫病で社会経済の混乱が続ぎ、収束はなお見えない。と、前任の本社経済部ではそんな記事ばかり書いてきた。だが、久留米はどうも様子が違う。安定感がある。コロナ禍が直撃した観光・サービス産業が比較的少ない半面、医療機関が多いという環境があるのかもしれない。

だが、私は思う。「文化芸術」の力が大きいのではないか。昔、私がそうであったように、未曾有の疫病への不安に覆われた心を、美術や音楽が癒やしてくれたに違いない。昨年は藩主有馬氏が久留米に入城して400年の節目だった。歴代の藩主は教育や文化芸術を大切にしている。その伝統が久留米の地に染み渡っている、と聞いた。そして、その中心にあるのが、久留米連合文化会である。久しぶりにお会いした連合文化会の皆様は、変わらず朗らかだった。2022年も大いに語り合いながら、ともに歩んでいきたい。』

令和元年度 久留米市表彰

連文会員で受賞された皆さんをご紹介いたします。11月3日(文化の日)市の表彰式が行われました。

芸術奨励賞

芸術分野で今後の活躍が期待される人に贈られました。

■書道部 瀧田 葉子



この度は身に余る賞を頂きありがとうございます。ございました。支えてくださいました。諸先生方に深く感謝

謝し御礼を申し上げます。また久留米商業高校在職中、書道部員の高文連主催総合文化祭全国大会、九州大会出場の実績も評価されたことで、改めて生徒たちとの出会いにも感謝しております。コロナ禍で予定されていた書道展が2年連続で中止となり、昨年春には母を亡くし力の抜けた状態でおりました。このような時に受賞の報を頂き、驚きとともに目が覚めたような思いです。これからも頑張っていかなばと「力」を頂きました。今後も書の素晴らしさ、美しさを伝えるべく、尚一層引き締め精進してまいります。

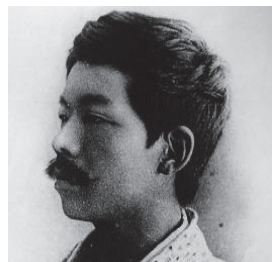


■華道部 緒方 紀美子



1988年、草月流陶花会田中千舟社中に入門。

以来、草月流の基礎・技術・花型の創作を学び雅号(八公千)を取得。その後、陶花会会員とも交流を深め田中社中展や研究会を開催。又、会員と共に福岡市内百貨店に度々大作を出品。
2006年1級師範資格を取得し自宅で指導を開始。2007年に久留米連合文化会に入会し以降久留米若田屋にて毎年出品。来春にシティプラザに於いて出品予定。
筑後市在住 4世代同居家族(6才、95才)



けしけし祭り。言わずと知れた青木繁碑前祭である。今回けしけし祭りが始めて以来初めて開催場所を移

転することとなった。実に簡単な理由から七十数年ぶりに変化が生じたのである。兜山キャンプ場管理棟が解体閉鎖され、水、電機、トイレ等のインフラが使えなくなってきたからだ。今のところ有力な移転場所は高良山森林公園。インフラが充実し、借景そのものも兜山と大差ない。ただ碑前祭と呼べるかどうかは、はまだ疑問ではあるのだが。

さかのぼること昭和二十三年、ともに上野の美術学校で学んだ知己坂本繁二郎の筆になる「母います国」の歌碑が兜山(けしけし山)に建てられた。それは薄幸の天才に捧げる哀悼慕情の石碑だった。その除幕には福田たね、福田蘭童も参列し、その時を始まりとして今日まで営々と続いているのがけしけし祭りであり、のちに主催団体となった久留米連合文化会有志による献花、献茶、献詩、献歌、献句、献書、献舞等が奉納され、柳坂小学校児童による「母います国」(福田蘭童作曲)―「我が国は 筑紫の国や

けしけし祭りのあゆみ

白日別け 母います国 はじおおき国 はじおおき国 《の合唱を聞きながら石碑にかつぽ酒をかけて慰霊するのが、良きにしろ悪しきにしろ大いなるマンネリズムと化し伝統へと昇華していこうとしているのである。

明治四十三年三月二十五日、健康と愛情とツキからも見放され、二十八歳の若さで世を去る青木繁が病床に伏しながら、つる子、たよ子姉妹に宛てた手紙には次のような一文が残っている。

今度はとてもこの病院の門を出ることとは期し居らず、今の中に皆様へのは迄の不幸不悌の罪を謝し、伴わせて小生死の亡骸の始末につき一言お願い申し上げ候。小生が苦しみ抜きたる十数年の生涯も、技能も光輝もなく水の泡と消え候も、是不幸なる小生が宿世の為劫にて候べき。焼き残りたる骨灰は序での節、高良山の奥のけしけし山の松樹の根に埋めて被下度、小生はかの山のさみしき頂より、思い出多き筑紫平野を眺めてこの世の怨恨と憤懣と呪詛とを捨てて静かに永遠の平安なる眠りに就く候とある。

この一文に思いを馳せ、一九〇四年の夏、坂本繁二郎、福田たねらとともに千葉県館山市布良に滞在し、マグ口漁に携わる人々を描いた「海の幸」へのイメージを膨らませながら、森林公園から兜山までの道を辿っていると、「テッペンカケタ力」と聞こえる鳥の鳴き声。知らず知らずのうちに口ずさんでいるのは「季節は

ずれなのはホトトギス 誰が笑つても知らぬまま 喉に血反吐見せて狂い鳴く あわれあわれ山のホトトギス もうすぐだね君の家まで」という陽水の歌。ずっとずっと遠い昔、高校の遠足での紫雲台への道すがら、一人の女子生徒を真ん中にして歩き、競い合うように告白していた同級生。一人は殺陣師となり、もう一人は母校を臨むマンションに移り住み、日がな一日読書に耽っている。では、彼はと、はたと思ひ、彼は自分の中に「文学をする」ということを見出そうとしていたのではなかるうかと思ってしまう。それが彼にとつて流浪であり、まさしく like a rolling stone だったのだらう。そしてその先には、ただただ格好つけたかっただけの青木繁がいた。そして、あれよあれよという間に、まなならぬ流転の海にはまり、豊穣の海の中で揺蕩っていた海の幸を見つけて、その中に己の「文学をする」ということを帰結させていった、と身勝手な妄想に囚われてしまうのである。(広報委員会)



文化振興(社会福祉の増進など、市の振興発展に寄与した人が表彰されました。

久留米市功労者

〈文化振興〉

茶道部 川口 博子



この度の受賞は、久留米連合文化会の諸先生方に支えられての事、只々感謝あるのみでございます。有難く厚く御礼を申し上げます。

今後、久留米市功労者の称号に恥じないよう又励みに、更なる精進をし、久留米市はもとより久留米連合文化会に微力ながら貢献できますよう務めて参る所存でございます。

茶道との出会いは三和銀行(現三菱UFJ銀行)勤務の時、福利厚生の一環として茶道を習い始めたのがきっかけで、昭和33年大日本茶道学会正教授資格取得、以来日本伝統文化の茶道の魅力に神髄し今日に至っています。

一人でも多くの方に茶道の奥深さをお伝えしたく、西日本新聞TNC文化サークル、大野城まどかぴあ、久留米市立南薫小学校、自宅茶室で茶道の普及に務めています。

今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

文化の架け橋に

久留米市 合肥市友好都市締結40周年記念イベント

友好都市交流「40年の奇跡」

久留米市と中国・合肥市は、1980年5月に友好都市を締結を行い、教育や文化、スポーツなど様々な分野で交流を深め、2020年に40周年を迎えました。

2021年11月に開催された記念イベント「友好都市交流「40年の奇跡」(主催久留米市)で連文会員が交流活動を行いました。

交流展と合肥市への窓

作品展示と相互鑑賞

2021年11月16日(火)〜21日(日)、

中国・合肥市との友好都市締結40周年を記念し、久留米市美術館にて交流展が開催されました。

連文からは美術部門(書道・工芸・洋画・水墨画・日本画・写真・デザイン)役員等から39名の作品展示を行いました。

対面が叶わない情勢のなか、久留米市美術館と合肥市の会場



(合肥久留米友好美術館)とをモニターに映し、書画展示の相互鑑賞という新たな試みを実施されました。

オンライン交流

また、20日(土)には合肥市とオンラインで繋ぎ、書道部の井上泰三さんと鄧石如(とうせきじょ)さんのご子孫である書家との対談を行いました。



井上さんからは、鄧石如さんが清朝を代表し、篆隸書を築き上げた書家として日本においても重要な人物であることを伝えるとともに、相互の芸術文化の興隆のためにも交流を続けていくことが重要であるとの思いを伝えました。

これを受けて合肥市のほうからは、コロナが終息した暁には、久留米市の芸術家の皆さまに是非合肥市に来てほしいとの言葉をいただきました。今後、芸術文化の交流を通して、より一層友好の絆を深め、相互発展につなげていくことを誓いました。

(広報委員会・伊藤花珠)

第23回 短歌部「歌評会」

令和三年十月九日(土)、石橋文化会館 研修室で開催しました。

選者二名による特選歌と互選は次の通りです。

◎特選歌

藤吉宏子選

一位 広々と風吹き渡る夕畑を秋津群れ

飛ぶ暑さ鎮めて 田代直美

二位 十五夜を愛でて鳴き継ぐ虫の音が

ドイツにかくは聴こえざりけり 大津留悦子

三位 コロナ禍に盆の行事は様変わる代行

業者が募参りすとふ 渡邊珪子

栗林喜美子選

一位 十五夜を愛でて鳴き継ぐ虫の音が

ドイツにかくは聴こえざりけり 大津留悦子

二位 戦記に読む「呻吟」の文字目に甚し

叔父も従兄もこの戦にて 酒井イオエ

三位 亡き人の愛でし白萩芽吹きをる被

災後四年同じ庭隅 小林よし子

◎互選

一位 亡き人の愛でし白萩芽吹きをる被

災後四年同じ庭隅 小林よし子

二位 わが姉も共に独り居夜となればか

ける電話に寂しさ別つ 宮澤真由美

三位 十五夜を愛でて鳴き継ぐ虫の音が

ドイツにかくは聴こえざりけり 大津留悦子

(短歌部・田代直美)

2021年度 筑後・詩の集い

〈詩人 鍋島幹夫さんをしのぶ〉

2021年 11月7日(日)、文化センター 共同ホールにおいて、福岡県詩人会と共催。参加者 50名。今回の詩の集いは没後 10年の節目として鍋島幹夫さん(元会員、1999年現代詩H賞受賞)を偲ぶ会となった。

第1部は渡辺玄英さん(日本現代詩人会)と浦田義和さん(久留米大教授、詩人に鍋島作品の独自の世界観を解釈して頂いた。



第2部は思い出と作品の朗読。司会は緒方(会員)。福岡県詩人会から4名の方が鍋島作品を朗読した。会員からは緒方が思い出を詩に仕上げて朗読。親交が深かった山本源太(会員)が、こころ温まる思い出の数々を語った。鍋島さんの友人も多く参加されて、終始和やかな雰囲気であった。

(詩部・緒方和美)

交流の歴史

連文会員が参加した交流の一部を紹介します。



●1992年
合肥・久留米友好美術館開館
友好都市締結10周年を記念し、久留米市民と久留米市の寄付金などで合肥市に建設。連文会員の作品を所蔵される。



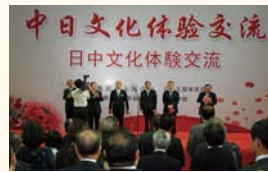
●2005年
友好都市締結25周年記念事業
(合肥市)
合同音楽会 久留米市民吹奏楽団、
合肥市歌舞団合同芸術展
久留米市文化連合、
合肥市文学芸術界連合会



●2007年 合肥市芸術作品展 (合同芸術展)
(久留米市)



●2012年 合肥・久留米友好美術館開館
20周年記念事業 (合肥市)



●2015年 友好都市締結35周年記念事業 (合肥市) 文化体験交流

●2017年 合肥・久留米友好美術館開館25周年記念事業 (久留米市)
揮毫、連文に寄贈 (友好都市交流「40年の奇跡」に展示)



●2021年 友好都市締結40周年記念事業。友好都市交流「40年の奇跡」 (久留米市)

久留米・合肥市友好都市締結35周年記念事業参加の思い出

平成27年(2015)10月27日より30日迄の日程で、合肥市で、友好都市締結35周年の記念事業を開催され、公式訪問団のほかに、文化訪問団として、連合文化会から、茶道部、書道部に所属する会員が参加しました。

文化交流事業は、28日、治安の問題もあり、合肥学院(大学)構内の体育館で、合肥市と久留米市で相互の文化交流を行いました。

合肥市からは、書道、切り絵、焼き絵が行われました。久留米市からは、茶道

(野点)、着付け(久留米絃)、書道(絵手紙)、折り紙が参加しました。

茶道部の野点は、和親棚を使った立礼で行いました。大学に日本語学科があり、多くの学生さんが集まり、3時からの開会式が終わり次第始めた茶会は、5時の閉会まで、学生さんが中心でしたが、途切れることなく茶席に入ってお茶を飲んで、楽しんでいただきました。特に、女子の学生さんが積極的に、ボーイフレンドを伴って参加いただきました。

ました。

お茶の体験コーナーを設けたところ、

男女を問わず多くの学生さんに参加いただき、お茶碗を洗ったり、竹の茶杓で上手にお抹茶を入れ、茶筌でお茶を点てたりで、にぎやかな交流が出来ました。終わるころには、茶席のお茶が間に合わず、学生さんにお手伝いいただきました。体験コーナーが即水屋となりました。学生さんの点てたお茶を茶席に運ぶ有様で、2時間程の交流でしたが、有意義で、楽しい時間を過ごしたことを思い出します。

(茶道部・田中俊博)

第67回 桃青忌俳句大会

11月23日(祝)、コロナ感染症も収束に向かいつつあり、二年ぶりの大会を行いました。

昨日来の雨も上がり、紅葉の美しい高良山の中腹にある桃青霊社吟行の後、上津コミュニティセンター校区会館にて、句会を開催しました。

参加者が少ないこともあり、今回は、選者は二名としました。

特選句(◎)佳作句は次の通りです。



宮崎 みゆき選

◎生涯は旅にも似たり翁の忌

矢野 愛子

今の世の句は如何なるや芭蕉の忌

野口 桂子

降りて止みまさに時雨忌なるひと日

吉田 いずみ

野口 桂子選

◎九州のこの地に修す芭蕉の忌

吉田 いずみ

参加者の減りゆく憂ひ翁の忌

大坪 久美枝

この街に今も続きて翁の忌

吉田 いずみ

(俳句部・野口桂子)

第3回総合文化部門展覧会

令和3年10月26日(火)～11月2日(火)、
えーるピア久留米2階ギャラリーにて開催
しました。

昨年はコロナ禍の大変な状況の中で、
隙間をくぐり抜けて開催できた貴重な
展覧会でした。

こんな時だけ
からこそ、文化に
目を向けてもら
い少しでも心穏
やかに日常を過
ごしてもらえれ
ばとそんな思い
で、各々が心を
込めて作品を
作り上げてい
ました。



来客者の方々から、見ていて面白い、
楽しいと、様々な意見を頂きましたが、
これが本来の芸術の本質のように感じ
ています。何よりも観覧してもらって、
喜んでくれる姿に、作品を作る側も喜び
を感じ、改めて芸術の良さを感じています。

総合文化部門は、まだまだこれからの
部門であり、未熟ではありますがこれか
らも様々な分野との交流やコラボの中
で、新しい文化や可能性を見出し出して行
きたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお
願い致します。

(総合文化部門・野田弘樹)

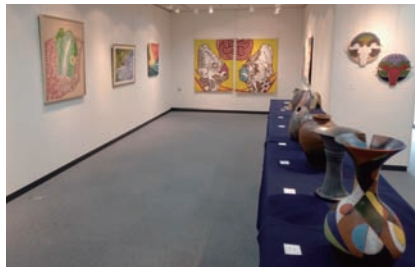
第14回連文工芸部作品展

2021年12月7日(火)～12日(日)、久留
米市一番街多目的ギャラリーにて【第14
回工芸部会員作品展】を開催しました。

コロナ禍に見舞われるまでは、えーる
ピア久留米【市民ギャラリー】で開催し
てきましたが、コロナ禍の影響を受けて
会場が使用できなくなり、2020年会
員展は開催を見送っていました。

2021年の会員展を計画する際は、
コロナウイルス感染症が拡大しても施
設の利用が休止されないことを優先し、
展示場として初めて【多目的ギャラ
リー】を使わせていただく事になりました。

また、設備やスペースの問題で、自宅
での制作が困
難な会員(主に
染色)の方々は、
公共施設をお
借りして大型
作品を手掛け
るのですが、感
染者拡大防止
のため公共施
設の利用が休
止され、コロナ禍での作品制作がスムー
ズにいかないという場面もありました。



このような困難を乗り越え、ようやく
展示会に漕ぎ着けた工芸部員たちの表
情は少し安堵しているようにも見えま
した。

実に1年半ぶりの顔合わせでした。

2021年の最後の月になんとか作品
をお披露目できる機会が得られた、その
事実が私たちに社会が少しずつ以前の
状態に戻りつつあるのだという希望を
与えたようにも思えました。

(工芸部・廣藤圭)

フジタバレエ

第35回 バレエリサイタル

「リーズの結婚」

2021年8月20日(金)、久留米シテイ
プラザ ザ・グランドホールにて開催
しました。

「ラ・フィユ・マル・ガルデ」が初め
て上演されたのは1789年、フランス、
ボルドー。上演日はフランス革命、バス
ティュー襲撃事件の二週間前でした。そ
して今回「ラ・フィユ・マル・ガルデー
リーズの結婚」は多くの困難の中、盤石
の予防体制をとり先陣を切って上演さ
れました。

物語は明るい太陽が降り注ぐのどか
な田園風景の中、愛し合っているリーズ
とコーラスを中心に展開します。もっと
条件の良い結婚を娘リーズにさせたい
と思い二人の邪魔ばかりする母親シ
モーヌ。リーズに片思いのアランと父親
トーマス。そして村娘と農夫たちを交え
ての善意と美しい心が詰まった愉快で
陽気なバレエが展開されます。その中で



も際立っていた小道具たち。リボンを
使ったあやとりのパ・ド・ドウ。コル
ダンサーとリーズ、コーラスが躍るリボ
ンのパ・ド・ドウ。母親シモーヌの木靴
のダンス。アランが肌身離さず持つてい
る赤いバラソル。そしてその赤いバラソ
ルに込められたお母さんの面影。それは
赤いバラソルをさしたおかあさんの後
姿。アランが誰かに親切にするとその人
はアランにありがとうと言ってくれる。
その時アランは何も言えない。じんわり
とした優しさを感じてしまうのです。

これらの小道具を駆使しながら舞台
は展開し、愛する娘のためにシモーヌ
は二人を許し、喜んだ二人は愛のパ
ド・ドウを踊り、人々は心から二人の
結婚を祝い、アランは大好きな赤いバ
ラソルをさしてリーズとコーラスを祝
福して大団円を迎えるのです。

そして最後に奮然たる決断を下した
主宰の言葉「コロナの長い暗いトンネ
ルの中で、悩み考え手探りで過ごしてい
ました。」「幕を上げる」決めました。やっ
と幕が上がります。に敬意を表したい
と思います。

(広報委員会)

久留米茶道連合会

大施餓鬼法要

11月14日(日)、梅林寺において物故会員の施餓鬼法要を営みました。



例年11月の第2日曜日は梅林寺開山和尚様への献茶。続いて物故者法要。

各流追善の釜をかけて大茶会を行って参りましたが新型コロナウイルス蔓延防止の為昨年が続いて今年も茶会は中止と致しました。しかし永年続けてこられ、そしてきました物故者の法要の灯は消すまいと各流代表者2名の参加でコロナ終息と来年の茶会開催も念しながらの施餓鬼法要でした。今年は裏千家の故三牧宗淑先生一名、過去帖に追記されました。

(茶道部・草場宗玲)

久留米光画会115周年記念事業 講演会と写真展を終えて

講演会は12月5日(日)、ホテルニュープラザ久留米にて、展覧会は12月7日(火)～12日(日)、久留米市美術館1階展示室にてそれぞれ開催された。

今回のはいろんな分野の指導的立場の方々に参加協力が依頼された。展覧会前に開催された講演会は、久留米連合文芸会(連文)から当会会員を含めた21名(写真部以外から4名)と福岡県美術協会から11名(写真部以外から3名)、全日本写真連盟(全日写真)福岡県本部委員長や大牟田と柳川の支部長などの他、総勢47名の参加であった。講演は日本カメラ博物館学芸員 井口芳夫氏による、『写真家とカメラ』新興

芸術時代からデジタルアートまで」として、10時開始から二時間近くの講話、その後質疑応答と、予定を大幅に延長したのでの充実したものであった。昼食後、久留米光画会の歴史や全日写真連会長 田沼武能氏(写真家)の文化勲章受章と祝賀会の様子などがビデオにより紹介されて、講演会は終了した。



「講演会の様子 2021/12/05 ホテルニュープラザ久留米にて」



展覧会の様子

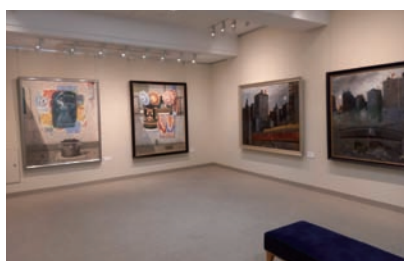
展覧会は19名に美術館1階全フロアが当てられた。その会場は久留米光画会を熟知した重鎮一人に対し1室とした作品群や歴史資料の展示など、会の特質を示すに十分な空間であった。新型コロナウイルスの影響が落ち着きを見せて、入場者は800名超、その多くの方々には、会員ともども、楽しい時間を過ごされていたようであった。

今回の記念事業は、伝統を護り繋ぐ大切さについての再認識と様々な人々との交流の良い機会となり、これからの文化活動に対する励みになったと思われる。

(写真部 広報委員・中村金次)

第72回 西部示現会展

11月9日(火)～14日(日)、久留米市美術館1階にて開催しました。



向坂万基子展

「つつみこむ空の下で」

11月23日(火)～28日(日)、ギャラリー

アールグレイにて開催しました。

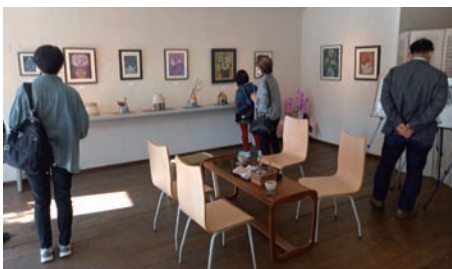
ひさびさの個展で、最近の絵画の小品と手びねりの陶器を展示しました。

コロナ禍で

平穏な日々が遠ざかり創作の意味を自身に問い直しています。

それでも明日に希望があるようにと願うばかりです。

(広報委員会)



◎日誌◎報告

2021年令和3年 8月～12月 report

水天宮献茶表千家不白流九州支部(野点)	8/6(金)・水天宮
フジタバレエ第35回バレエリサイタル	8/22(日)・久留米シティプラザ ザグランドホール
篠山神社大祭献茶(江戸千家久留米不白会)	9/29(水)・篠山神社
第23回短歌部歌評会	10/9(土)・えーるピア久留米
高良大社献茶(表千家不白流九州支部)(野点)	10/10(日)・高良大社
九州クリエイターズマーケットvol.15	10/24(日)・九州芸文館およびその周辺
第3回総合文化部門展	10/26(火)～11/2(木)・えーるピア久留米
2021年度 筑後・詩の集い (詩人 鍋島幹夫さんへの追悼)	11/7(日)・文化センター 共同ホール
第72回西部示現会展	11/9(火)～14(日)・久留米市美術館1階
日吉神社献茶(表千家不白流九州支部)(野点)	11/11(木)・日吉神社
総合文化部門第5回文化講演会 (日本蜜蜂 驚くべき生態と私たちへの教訓)	11/13(土)・えーるピア久留米301・302
第74回久留米茶道連合会大施餓鬼法要	11/14(日)・梅林寺
第67回桃青忌俳句大会	11/23(祝)・上津町コミュニティセンター
向坂万基子展	11/23(火)～28(日)・ギャラリーアールグレイ
第29回ふくおか県民文化祭2021 北筑後地区芸能フェスティバル	11/28(日)・三潯生涯学習センター 多目的ホール
第28回賢順記念全国箏曲祭	12/5(日)・石橋文化ホール
子どもから大人のための天文学講座	12/5(日)・久留米シティプラザ
久留米光画会創立115周年記念展覧会	12/7(火)～12(日)・久留米市美術館1階
第14回連文工芸部作品展	12/7(火)～12(日)・久留米市一番街多目的ギャラリー
ウインターコンサートin城島	12/12(日)・インガットホール
◎芸術散策◎行事のお知らせ 2022年(令和4年) 1月～6月 information	
第6回 喜多流「久留米座」能	1/22(土)・久留米シティプラザ 久留米座
第49回久留米謡曲連盟謡曲大会	1/23(日)・久留米シティプラザ 久留米座
ぼっさい落語 もしもに備える心の種まき	1/23(日)・えーるピア久留米
連文役員新年会	1/30(日)・ホテルマリタール創世
第40回久留米連合文化会会員華道展	1/30(日)～2/2(水)・久留米シティプラザ 展示室
第20回ジュニア青木繁展(Web展示)	2/1(火)～2/28(月)・久留米連合文化会HP
池坊三潯支部	3/18(金)～3/21(月)・久留米シティプラザ 展示室
連文日本舞踊部 日本舞踊公演『春の彩』	3/20(日)・久留米シティプラザ 久留米座
第69回けしけし祭	3/21(祝)・順光寺・久留米森林つつじ公園
久留米歌壇第38集発行	4/1(金)発行
華道家元池坊久留米支部花展	4/16(土)～4/17(日)・久留米シティプラザ 展示室
久留米文学第69号発行	5/1(日)発行
令和4年度連文定期総会・祝賀会	5/00(土)・ホテルマリタール創世
第57回短歌大会	6/5(日)・石橋文化会館 小ホール

No Art, No life

会員のひろば
(会員専用ページ)

連文ホームページには「会員のひろば」として、会員専用ページに様々な委員会の活動報告等を掲載しています。ぜひ、ご確認ください。※会員のひろばのパスワードは事務局にお尋ねください。

リモート会議
(Zoomの活用)

連文ではZoomのアカウントを取得しています。このアカウントを使用すれば、時間の制限なく、Zoomミーティングが開催できます。詳しくは、会員のひろば *記事 No.02をご覧ください。不明な点は事務局へお尋ねください。

コロナ禍で芸術文化活動を継続するために

連文ホームページ・SNSを
活用しよう

長期化するコロナ禍、会員の皆様には大変なご苦労があると拝察いたします。このようなときにこそ、連文ホームページやSNSを大いに活用されては如何でしょうか。

連文ホームページでは今後の会員活動のお知らせや、終了した事業の報告などをタイムリーに掲載しています。また、連文フェイスブックページとも連動し、会員個人の活動についてもお知らせのある限り、掲載に努めています。

部門・部の事業をはじめ様々な企画のお知らせなど、大いに活用してください。



訃報(令和3年8月～12月)

謹んでご冥福をお祈り致します。
徳永 娥重さん (茶道部) 令和3年8月8日
小川 千鶴子さん (書道部) 令和3年9月26日

